



HOME | フライバシーポリシー | サイトポリシー | サイトマップ | マニュアル |

第13-54947号
2015年04月10日

構成組織 書記長・事務局長様
地方連合会 事務局長様

日本労働組合総連合会
事務局長 神津里季生
総合政策局長 花井圭子
総合企画局長 寺田 弘

朝日新聞「ペットボトルふた回収のNPO、ワクチン代寄付滞る」報道について

4月10日(金)の朝日新聞朝刊に「ペットボトルふた回収のNPO、ワクチン代寄付滞る(報道は別紙の通り)」との記事が掲載されました。

連合は、「エコキャップ推進協会(以下、エコ推)」からの要請を受けて、「再資源化の促進で焼却処分に伴うCO2の発生抑制、キャップの再資源化で得た売却益を国内外の子どもたちへのワクチン寄贈ならびに貧困救済等に寄与する」との目的に賛同し運動に参画してきました。

2008年～2011年には笹森元会長が理事長に、古賀会長(当時、事務局長)が理事に就任し、連合は、エコ推の活動を広げるため、連合会館(当時、総評会館)におけるエコキャップ回収箱設置や、構成組織および地方連合会に対してエコキャップ回収の取り組みを働きかけてきた経過にあります。

しかし現在は、エコ推の役員には連合会長、事務局長いずれも就任していません。一方、回収に取り組んでいる組織もあり、報道内容が事実であるとすれば真摯に取り組んでいる労働組合、組合員、学校、市民団体などを裏切るものです。

現在、エコ推とは連絡がつかない状況にあります。今後の取り扱いについては、早急に事実を解明した際に周知することといたします。

以上

連合 総合政策局(社会政策局)、総合企画局

(添付資料)

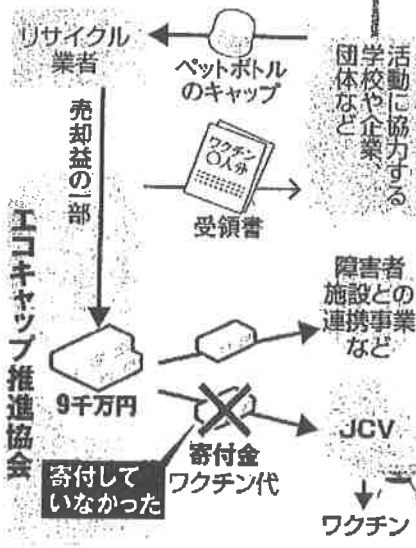
- [朝日新聞掲載記事\(2015年4月10日朝刊\)](#)



▲ PAGETOP

©2011 RENGO NET. All rights reserved.

エコキャップ推進協会の活動 2013年度



「世界の子どもたちにワクチンを」と呼びかけ、ペットボトルのキャップの回収を進めるNPO法人「エコキャップ推進協会(エコ推)」(本部・横浜市)が2013年9月以降、キャップの売却益があるにもかかわらず、ワクチン代に寄付していないことが分かった。今も同じ呼びかけを繰り返して、寄付を受けてきた団体から疑問の声が上がっている。

13年9月以降ゼロに

矢部信司理事長は9日、(を)裏切り、申し訳ない事実関係を認め、「(キャップを集めている協力者)と話した。エコ推は07年設立。リサイクル業者を通じて得たキャップ売却益の一部を、認定NPO法人「世界の子ども」に寄付している。エコ推は07年設立。リサイクル業者を通じて得たキャップ売却益の一部を、認定NPO法人「世界の子ども」に寄付している。エコ推は07年設立。リサイクル業者を通じて得たキャップ売却益の一部を、認定NPO法人「世界の子ども」に寄付している。

ペットボトルふたリサイクルのNPO ワクチン代寄付滞る

「一匹太平洋洋船の碇」を訪れ、遺族や関係者らに言葉をかける天皇、皇后両陛下
二つ折れも9日、パオ・ペリリュー勲、代表撮影

もにワクチンを日本委員会(JCV、細川佳代子理事長)に寄付してきた。JCVはユニセフを通じ、ポリオやはしかなど感染症のワクチンを途上国に届けたり、エコ推からの寄付が主な財源となっている。エコ推は08、11年には元連合会長の笹森清氏(故人)が理事長を務め、活動は全国の学校や自治体、企業・労組、市民団体に拡大。これまで8万5千以上の個人・団体が122億個以上のキャップを集めた。JCVによると、12年は2700万円、13年は8月末

までに3500万円の寄付をエコ推から受けた。エコ推の事業報告書によると、13年度(13年9月、14年8月)も売却益など約9千万円の寄付収入があった。また、キャップを集めた学校などには、ワクチンへの活用を示唆する「ワクチン〇人分」と記載した受領書を今も渡している。矢部氏は、寄付をしていない理由について「障害者施設と連携してキャップのシールをはがしてもらえない、リサイクルの仕組みづくりが集中している」と説明。職員の待遇改善も

「大人が信じられなくなる」「リサイクルの輪ができていたのに」。NPO法人「エコキャップ推進協会」が1年半もの間、ワクチン代に寄付していなかったことを知った学校現場からは、驚きや怒りの声があがった。

全く知らなかった ■ 昨年「特別功労賞」

エコ推は「キャップ8600個で、ポリオワクチン1人分の20円になる」と説明している。千葉県君津市では、5年前から市内の公

立の全中学校の生徒会がキャップを集めてきた。27回に分け、計601万個を集めた。最近では今年2月27日、エコ推から受け取った受領書には「累計でワクチン7193・6人分」と書かれていた。運動を進めてきた市立清和中の空閑一教頭は「ワクチンに使われていないことを全く知らなかった」と憤った。福島県郡山市のある市立小学校

は昨年11月、エコ推から「特別功労賞」を受けた。地域ぐるみで取り組み、スパーに回収箱を置いてもらったり、近所の人が学校に持ってきてくれたりした。児童たちは、集まったキャップの個数をポスターで掲示していた。担当教諭は「当然ワクチンになるものだとばかり思っていた。せつかく良いいリサイクルの輪ができていたの」と話した。(影山 渡井 文)

回収に参加した学校

学校名	11(土)	12(日)	13(月)
札幌	10	10	14
青森	10	11	16
仙台	50	11	13

学校名	11(土)	12(日)	13(月)
札幌	10	10	14
青森	10	11	16
仙台	50	11	13
大板	80	10	18
広島	80	10	18
高松	90	10	18
福岡	80	10	18